

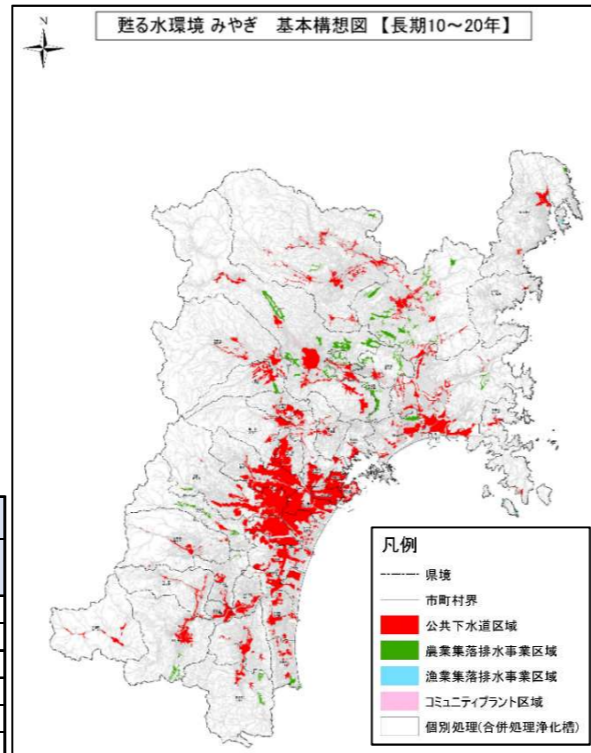
1. 背景

本県における汚水処理事業は、施設老朽化に伴う更新需要の増大や、人口減少に伴う使用料収入の減少、職員数の減少に伴う執行体制の脆弱化などから、その経営環境が一層厳しさを増している。

こうした状況を踏まえ、県・市町村の枠を超えた「広域化・共同化」という視点から経営環境の改善のため、平成30年度から各市町村とともに広域化・共同化に関する検討を開始し、7つの地域ブロックの設定により各地域ブロックの特徴を踏まえながら、その取組メニューや取組時期などを取りまとめた。

2. 汚水処理の概要

- ▶ 本県では、仙塩、阿武隈川下流、鳴瀬川、吉田川、北上川下流、北上川下流東部、迫川の7流域で流域下水道事業を実施しており、全ての流域で水処理を開始している。
- ▶ 市町村は、「宮城県生活排水処理基本構想(平成28年6月)」に基づき、早期概成を目標に整備を進めており、令和2年度末時点の県内の汚水処理人口は約211万人で、汚水処理人口普及率は92.8%となっている。長期的な目標として、汚水処理人口普及率を98.3%に設定し、右図に示す区域での整備を目指している。



出典: 宮城県生活排水処理基本構想 平成28年6月

区分	現況(R2時点)		長期(R17時点)	
	汚水処理人口(人)	汚水処理人口普及率(%)	汚水処理人口(人)	汚水処理人口普及率(%)
下水道	1,885,822	82.9%	1,788,317	86.6%
農業集落排水	63,565	2.8%	40,391	2.0%
漁業集落排水	974	0.04%	906	0.04%
簡易排水	14	0.001%	1	0%
コミュニティ・プラント	1,706	0.08%	396	0.02%
浄化槽	158,282	7.0%	199,581	9.7%
合計	2,110,363	92.8%	2,029,592	98.3%

3. 地域ブロックの設定

地域毎に置かれている状況や課題が異なることから、流域下水道の構成市町村や県内の他事業における広域的な取組などにより35市町村を7つの地域ブロックに区分した。

各地域ブロックでの勉強会やヒアリングにより各市町村の汚水処理の現状と課題を整理し、その内容を基に実施可能な広域化・共同化の取組メニューを検討している。

①黒川ブロック:4市町村

富谷市, 大和町, 大郷町, 大衡村
中南部下水道事務所

②県北ブロック:5市町

大崎市, 色麻町, 加美町, 涌谷町, 美里町
中南部下水道事務所

③県南ブロック:13市町

白石市, 名取市, 角田市, 岩沼市, 蔵王町, 七ヶ宿町, 大河原町, 村田町, 柴田町, 川崎町, 丸森町, 亘理町, 山元町
中南部下水道事務所

④仙塩ブロック:6市町

仙台市, 塩竈市, 多賀城市, 松島町, 七ヶ浜町, 利府町
中南部下水道事務所

⑤登米・栗原ブロック:2市

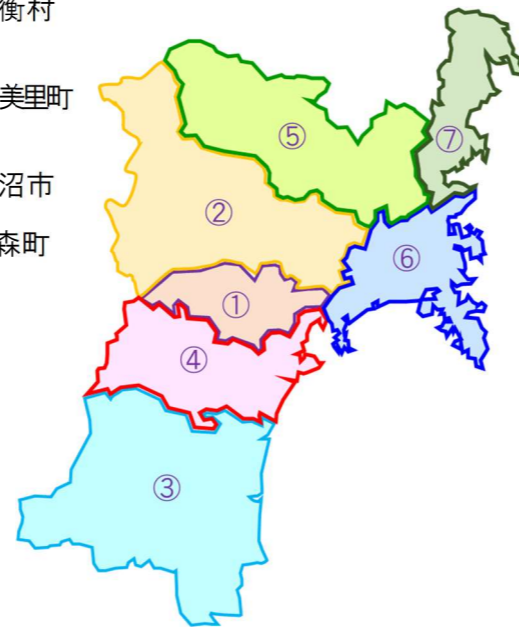
登米市, 栗原市
東部下水道事務所

⑥石巻ブロック:3市町

石巻市, 東松島市, 女川町
東部下水道事務所

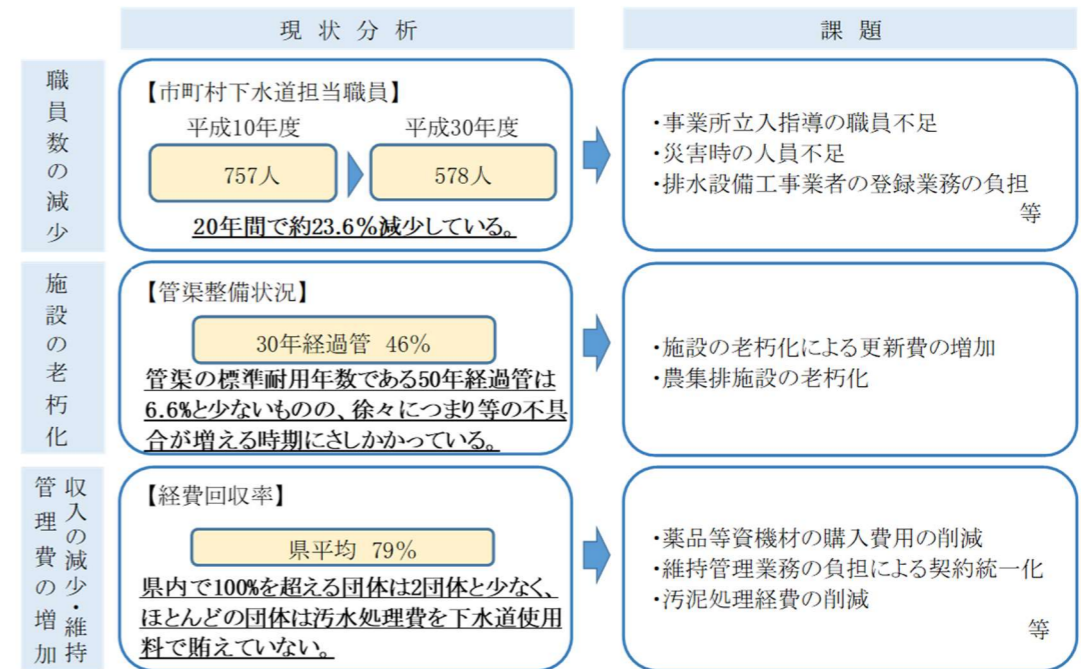
⑦気仙沼ブロック:2市町

気仙沼市, 南三陸町



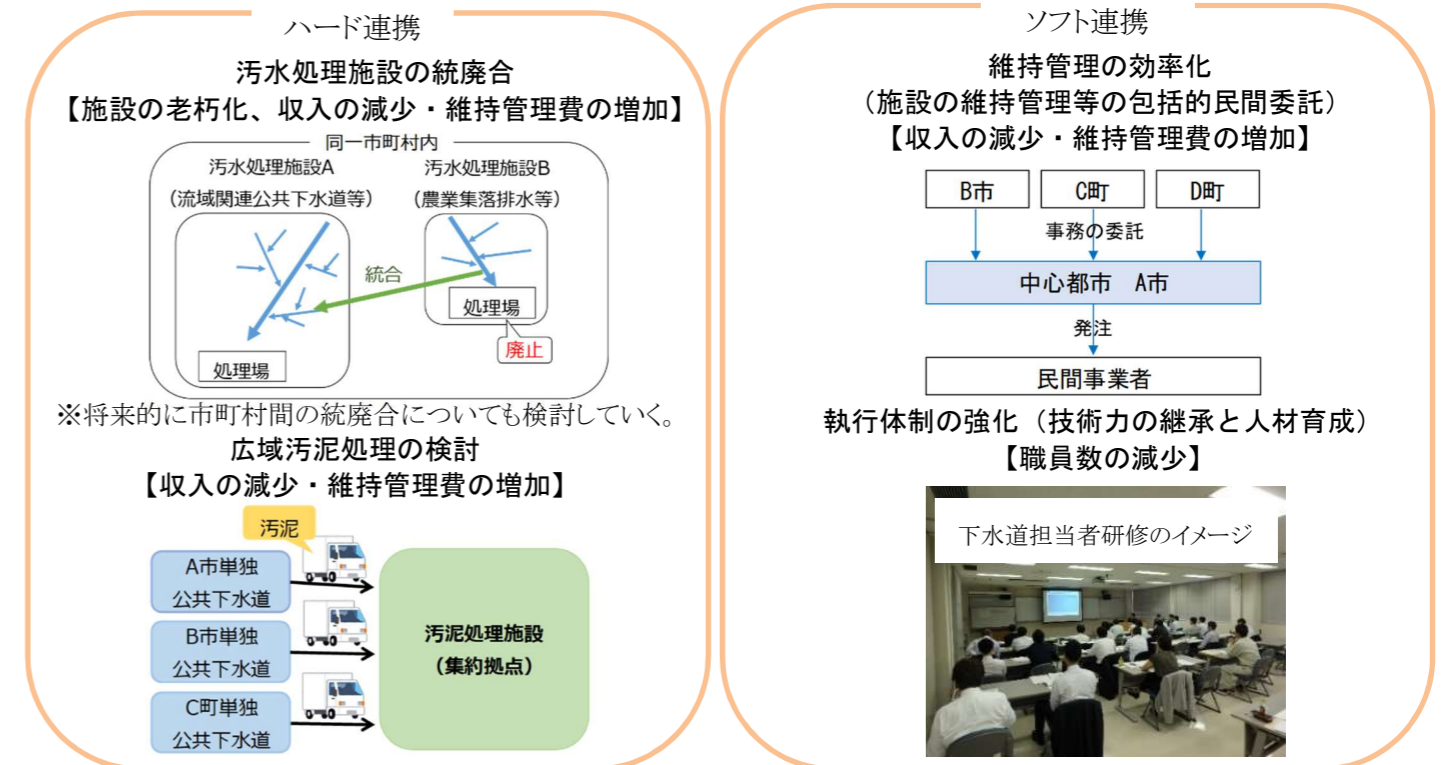
4. 現状分析及び課題抽出

下水道事業の現状を分析し、各地域ブロック勉強会により抽出された課題を下記のとおり整理した。



5. 現在検討している取組メニュー

上記で整理した課題を踏まえ、取組メニューについて各市町村と調整を進める。



検討のポイント

- ▶ 汚水処理施設の統廃合及び広域汚泥処理については、各市町村と連携し、処理費用の削減や脱炭素・再エネルギー化などに配慮し検討する。
- ▶ ソフト連携については、地域ブロック毎に課題が異なることから、市町村の意向を確認したうえで個別に取組メニューを検討する。